

要点 エッジワイズ矯正治療

ゼロから学べる

【トラブル防止と解決】

エッジワイズ治療で遭遇しかねないトラブルを事前に防ぎ、発生した場合は上手く解決するスキルを養います

高田 健治

Ask- Prof oral health consulting

目次

I. 総論	10
1. トラブル予防のためのルーチン	10
2. エッジワイズ装置の適応症	10
3. 予備知識	10
3.1 治療の対象と方法を選ぶ	10
3.2 歯の矯正移動のタイプ	11
4. AckermanとProffitの集合図	12
II. 各論	14
1. アンカレッジコントロール	14
2. 歯・歯列弓内の問題	14
2.1 レベリングとアライメント	14
2.2 転位・捻転した単独歯	18
2.3 叢生	19
■ 治療の一般解	19
■ 前歯部叢生	20
■ 抜歯空隙の閉鎖と再発	24
■ 切歯	24
■ 犬歯の移動	24
■ 犬歯のレベリングとアライメント	24

I. 総論

1. トラブル予防のルーチン

永久歯列期の咬合異常はスムーズに形成されるため、十分な治療が大半である。つまり無自覚の状態での自覚性が限られる。

歯の矯正移動を開始すると、咬根膜組織は人為的な咬合状態と接触でも痛みに対して敏感にならなくなる。

そのため、(歯肉の感覚とは異なつた)に異常な位置に咬合が加えられる状態であっても、患者は矯正移動中の感覚のままで過ごすことが多い。

その結果、歯肉も矯正移動によって治癒を続けることになり、歯肉が過剰な状態に、例えば膨出した状態が増進した、よく診ると犬歯も歯肉に直面する。

そのような問題が生じるのを未然に防ぎたい臨床ルーチンを挙げる。

- ・カルテには診療当日に行っても良い
- ・患者来院時に、先ず前回の視診は容赦のチェックから
- ・次に、デジタルチェアを患者に必ずチェックする。患者COだけでなくCRと下顎の
- ・次に患者をリクライニング
- ・個々の歯の転位、捻転、歯肉の状態を観察し、咬合開始の位置を治療開始前および「咬合の咬合とは異なる」の精度に影響を与える。

2. エッジワイズ装置の適応症*

- ・永久歯列期の咬合異常を治すために用いられる。

歯をこうして自然に移動させる利点は次の三つである。

- ① 移動時の痛みが無い。
- ② 機械的力を加えることによる歯根膜組織への障害が無い。
- ③ 唇・舌圧などの作用で自然に移動した歯は矯正力による移動と比べ、移動後の位置に安定して止まることが多い。

■ 犬歯の遠心移動

● 概要

レベリング・アライメントが終了すると、歯の概ね正しい隣接面接触と長軸の傾きが得られており、Spee彎曲も平坦化されている。次の段階として抜歯ケースでは犬歯の遠心移動を行う。

犬歯の遠心移動に応用するメカニクスには次の2通りがある：

- (1) 潜走移動
- (2) 牽引移動

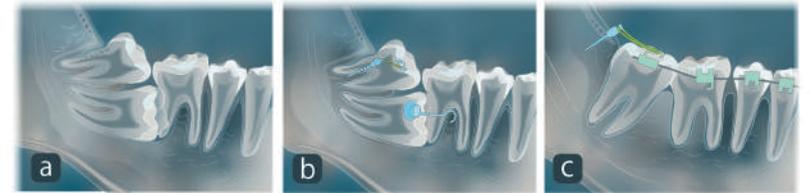
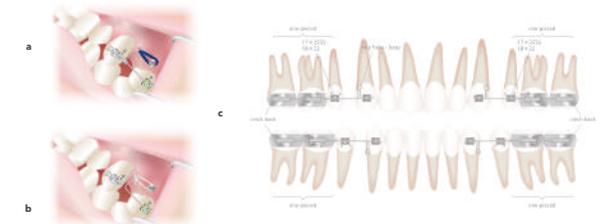


図7. 強いSpee彎曲を示すII級1類症例(a)をレベリングすると下顎切歯